

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

千葉県 館山市

学校名

館山市立第一中学校

学校のURL

<http://www.city.tateyama.chiba.jp/school/tate1/>

### 2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1学年2学級、2学年2学級、3学年3学級【特別支援学級】2学級、【合計】9学級

児童生徒数

【全生徒数】225人（平成22年4月1日現在）  
（内訳：1年生71人、2年生66人、3年生88人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「心豊かで活力ある生徒の育成」

【人権教育に関する目標】

（基本目標）

- （1）人権尊重の精神にたち、伝えあい、認めあい、磨きあいのできる生徒の育成。
- （2）差別や偏見に対して、自ら判断し正しいことを進んでできる生徒の育成。

（重点目標）

- （1）教科・道徳・特別活動その他全教育活動を通して人権教育を推進する。
- （2）学校だけでなく、家庭・地域社会の協力体制を確立し、地域全体で取り組む。
- （3）「差別をしない、差別を許さない、差別に負けない」を認識させ、判断力のある生徒を育てる。
- （4）日常の教育活動の中で、偏見や差別をしない、許さない生徒を育て、個を生かす学習活動を行う。

## 人権教育にかかる取組の全体概要

### 校内研究（仮説検証型の教科・領域研修）

「3つのあい」の具現化のために、教科研究では各種訪問（要請訪問・所長訪問）を研修の場として指導案作成と授業実践を行った。その際に各教科で「人権教育に関するテーマ」を作成し、「3つのあい」に授業のどの場面で迫るかを明示する指導案を作成した。

授業研究の結果は、各教科等とともに研究の一連の流れをまとめた共通の書式によって共通理解を図った。

### 一般研修（「3つのあい」実現のための諸活動）

「3つのあい」の考え方をよりどころとして、学校経営反省とその活用や、社会性チェックリストを活用した現状把握と学級づくりの方針確立、SWOT分析など、研修した内容を生徒に還元することを目標として研修を組んだ。

## 3. 特色ある実践事例の内容

### 1 人権教育全体構想および年間指導計画に基づく授業研究

人権教育に関する理解を深め、それを生かして人権教育全体構想および年間指導計画の作成・修正を行った。6月に南房総教育事務所指導主事要請訪問、11月に実践発表会として、各教科等で指導案を作成し、授業研究を行った。各教科等で人権教育に関するテーマを設定し、作業仮説を立てて仮説検証に取り組んだ。

### 2 社会性チェックリストをもとにした人権感覚の分析

チェックリストは、社会性を構成する9つの要因（「コミュニケーション能力」「アサーション」「共感性」「将来展望性」「集団参加能力」「実践力」「規範意識」「基本的生活習慣」「自尊感情」）をもとに、45項目の質問を設定し、各個人や学級の社会性を測るものである。人権教育を推進していくにあたり、生徒の実態を適切に収集し、分析、教育実践へと効果的につながるようにするために、毎年実施し、経年変化、成長を把握できるようにした。

### 3 SWOT分析の活用

「3つのあい」の深化の方策を探るため、SWOT分析の手法を導入した。学校の内側と外側の環境をそれぞれ「強み」「弱み」「機会」「脅威」に分類し、配置する。その作業を通して学校の分布状況から、学校の内外環境を把握・分析し、「3つのあい」の深化にむけての方策を探るための手法とした。

### 4 生徒主体の教育活動・地域連携

生徒主体の様々な活動や行事の改革の理念として、「ほめあう相互評価」の積極的な導入（行事や学級活動でのメッセージカード・ワークシートの工夫等・集会時の感想インタビューなど）地域との交流を主とした「認めあい」活動（地域ボランティアや文化祭の人材活用）がある。こうした取り組みは数力年にわたって継承されているため、生徒の受け止め方も自然で、本校の伝統として定着しつつあると考えられる。また、本校のスローガン「明るい挨拶 輝く笑顔」や「伝えあい」に基づき、生徒会本部役員や校紀部員を中心に「あいさつ運動」を毎朝7時45分から55分までの間に実施している。平成21年度の2学期からは、「一中学区生徒指導連絡会議」（館山一中・船形小・那古小の三校）の中で、小・中学校のさらなる連携を深める手立てとして、また保護者や地域へも協力を呼びかけ、学区が一体となった取り組みに発展することを目的として今年度も毎月1日は、「学区あいさつデー」を実施している。

### 5 人権ルームについて

人権ルームは豊かな人権感覚を養うために、人権に関する資料を整備し、活用するための教室である。ここでは授業を行うとともに、昼休みなどを活用して人権に関する映像資料を流し、生徒が視聴できるようにしている。また、人権に関するポスター掲示やパネル展示を行い、生徒が日常から人権問題に触れ、考えられるようにしている。

## 6 人権意識の高揚・いじめを見逃さない学校づくり

日常的な人権教育の実践として教育相談活動は欠かせないひとつの柱である。

1学期には学級担任との相談を行い、2学期には希望する職員との相談を行える体制をとっている。またスクールカウンセラーとの連携を図り、2年生全員がスクールカウンセラーとの面談を行っている。

## 7 授業の相互参観について

相互に授業を参観し、アドバイスをを行うことで授業力を向上させることを目的としている。また、授業を担当していない学年や学級の授業を参観することで、多くの生徒の様子を知ることができることから、より生徒理解を深められると考える。参観は授業に限定せず、朝や帰りの学活も含まれる。授業参観シートを使った評価を行うが、それは批判的なものではなく、プラス面の評価を中心に行うことを基本とした。問題点を指摘する場合には必ず「代案」を示し、アドバイスするという姿勢を持つこととした。参観の視点としては、以下の3点である。

「3つのあい(伝えあい・認めあい・磨きあい)」の実現に迫っているか。  
生活集団・学習集団として学級が機能しているか。  
わかりやすく、生徒が生き生きと活動する授業となっているか。

### 授業参観シート

参観者お名前

( )

授業参観ありがとうございました。これからの授業をよりよいものにしていくために、プラス面の評価でお互いに高めあってください。

参観日	月	日( )	時間目	クラス	年 組
教 科				担当教師	先生
とてもよかった			授業の雰囲気 声の大きさ 黒板の使い方 教材・教具の工夫 授業の規律ができている 生徒が生き生きと活動している 「伝えあい」に迫っている 「認めあい」に迫っている 「磨きあい」に迫っている 生徒の人権感覚を高めている 班活動が充実している 評価が適切に行われている 生徒の人権に配慮しながら授業を進めている 生徒が理解しているのを確認しながら授業を進めている その他( )のところが		
よかった			授業の雰囲気 声の大きさ 黒板の使い方 教材・教具の工夫 授業の規律ができている 生徒が生き生きと活動している 「伝えあい」に迫っている 「認めあい」に迫っている 「磨きあい」に迫っている 生徒の人権感覚を高めている 班活動が充実している 評価が適切に行われている 生徒の人権に配慮しながら授業を進めている 生徒が理解しているのを確認しながら授業を進めている その他( )のところが		
ここが一番よかった					
ちょっとアドバイス					
メッセージ					

## 8 人権教育講演会・ミニ集会

人権に関する理解を深めることを目的として講演会等を、人権教育をより効果的に進めるために保護者の来校する機会に合わせて開催した。

親子で聴く「人権教育講演会」を4月のPTA定期総会時に開催した。演題は「人権感覚豊かな人間関係」講師は上越教育大学教授の梅野正信氏。具体的な例を取り上げ、困っている人や悩んでいる人が見える、想像できることが大事である等、分かりやすい講演を聴講することができた。

また人権教育関係の映像資料を親子で視聴する「ミニ集会」を7月の1学期末PTAで開催した。映像資料は「財団法

いじめられて自殺してしまふ女の子の問題は  
とても大変なことだと思います。  
自分がやるべき言葉でも、相手はいや気持ちになっていることが  
あるかも知れないので、気を付けてください。  
これからは、自分が話す言葉を一つ一つ考えながら  
言いたいと思います。

人 人権教育啓発推進センター」から借用した「ひとみ輝くとき」で、いじめは加害者と被害者だけでなく、いじめをおもしろがっている観衆や見て見ぬふりをする傍観者の存在がいじめを助長しているなどいじめの問題点を提起した作品であった。

#### 9 花いっぱい運動（全校生徒一人一鉢）

校内の環境を整備し、気持ちよく生活できるように美化活動に取り組むとともに、全校生徒が一人一鉢（プランター）の世話をすることで植物を大切にすることの気持ちや思いやりの心を育成する。



### 4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・各教科等でそれぞれの仮説を立て、実践し、まとめができたことは大きな力になった。（各教科等において成果が報告された）
- ・授業内で自分の意見を発表し合う場面をできるだけ多く設けたことにより、互いの意見を聞き合うことができるようになった。
- ・社会性チェックリストによる生徒の実態把握と変容の分析については、集計結果を学級担任が分析し、夏季研修で全職員が全クラスの事例分析と「3つのあい」の深化のための優先順位をつけた方策が協議され、人権意識の高揚を図り学級経営に生かすことができた。
- ・花いっぱい運動（全校生徒一人一鉢）について、プランターで育てた植物を校外の施設に貸し出すことで、地域の一員としての自覚や自己存在感・自己有用感また成就感を実感した。
- ・SWOT分析を通して、職員がミッションを自覚し、実現のために何ができるかを様々な視点から考えることができた。また、この分析をもとに「分掌部会」を設置し、日常の分掌の機能を生かしたそれぞれの取り組みが検討された。
- ・生徒主体の活動について、生徒会本部が毎月の方針を定め、その考えに即した運営を考える運営委員会がある。運営委員会を経て準備された各専門部や学年評議会の素案は、生徒委員会で協議される。この生徒委員会では、生徒が主体的に意見を交換する場面が毎回展開される。こうしてできあがった原案に基づき、専門部活動が行われる。活動の充実のために運営委員会・生徒委員会・専門部の動きを見直したことで、様々な活動（保体部による球技大会や報道学習部の各種コンテスト、校紀部による挨拶運動等）が生徒主体で行われるようになってきた。

## 5. 実践事例についての評価

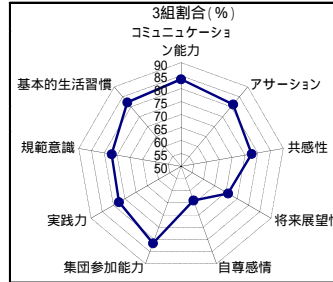
### 社会性チェックリストによる生徒の実態把握と変容の分析

学級経営の充実を図り、「3つのあい」に基づく人権教育に効果的に取り組むためには、生徒の人権意識等を探る必要がある。またその変容を捉えるために社会性チェックリストを実施した。

下のグラフは、3年生が平成21年6月、22年2月、6月、23年2月の4回行った調査の変容を表したグラフである。9項目すべてにおいてポイントが増加している。特に他者の人権を守るための「規範意識」では5.3ポイント、自分を大切にする「自尊感情」では3.5ポイント、相手のことを思いやる「共感性」では6.6ポイントの増加が見られ、取り組みの成果が表れている。

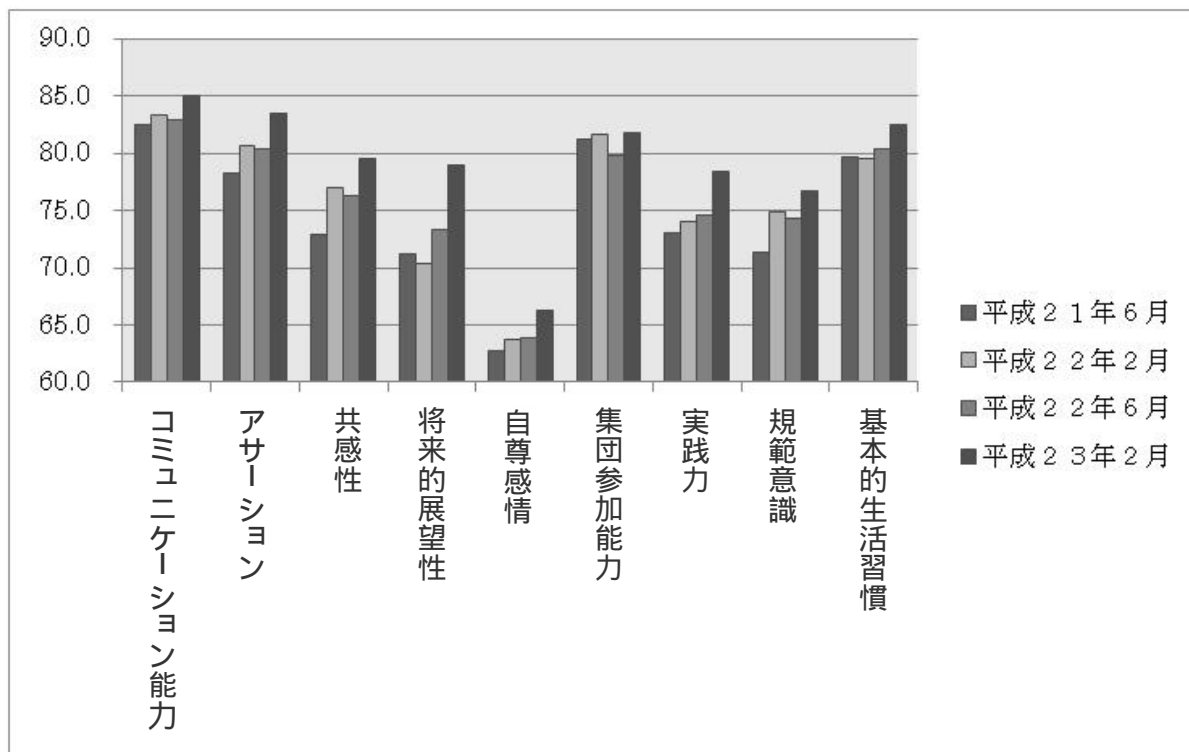
年 組	在籍 名 (男子 名 女子 名)	学級担任
-----	------------------	------

【社会性チェックリストの結果】



学級経営の目標・方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が身につく、何事にも積極的に取り組むとともに、仲間を思いやり、協力しあってお互いの向上を目指して努力できる生徒の育成</li> </ul>
1学期取り組んだこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポート</li> <li>・グループエンカウンタ</li> <li>・「いろいろジャンケン」</li> <li>・道徳</li> <li>・「試験勉強」</li> <li>・「串焼屋の孝一」</li> <li>・「たったひとつのたからもの」</li> <li>・朝・帰りの学活での話</li> </ul>

社会性チェックリストから考えられる人権教育推進に関する課題	
<p>自尊感情が、64.0%で、他の項目に比べ低くなっている。自分に自信が無い、自分を誇れないなどから、普段の活動に積極的になれないことに関連していると思われる。</p> <p>将来展望性が、70.9%である。先のことを考えた行動がとれないことに関連していると思われる。</p> <p>規範意識が77.1%、基本的な生活習慣が82.2%であるが、十分な値ではないと考える。ちょっとした行動(配膳台のふきんの片付け、消しゴムのカス、ゴミなど)ではあるが、「それは違うんじゃないのかな」と思える行動が見られる。</p> <p>個人ごとに結果が大きく異なり、それぞれの課題に対して、個別に対応していかなければならないと思う。</p>	
協議 - 具体的アドバイス等 (8月20日記入)	2学期取り組みたいこと
<p>集団生活の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意図的に活動させる。</li> <li>・みんなでやって、ほめる取り組み</li> <li>・教師の計画的な支援を大切にする</li> </ul> <p>コミュニケーションに関して個別指導</p> <p>集団のルールの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の向上を図るためにリーダーの育成</li> <li>・女子のリーダーを育成</li> </ul>	<p>優先順位順に</p> <p>集団のルールについて、話し合う場面を設定し、より良い集団作りに取り組む。</p> <p>リーダーを中心に、計画的に集団活動に取り組む。</p> <p>リーダーを育てる。</p> <p>コミュニケーションを中心に個別指導に取り組む。</p>



- ・「伝えあい」のための語彙力を高めるために、普段からできるだけ知識を吸収させ、その発露の機会も増やしたい。そのために授業時数の確保・朝読書・家庭学習の徹底が必要であると考える。
- ・自他を尊重するためには意思の疎通が必要であるが、生徒の実態に応じた話し合い活動の充実が図れない面があった。伝えあいが苦手な生徒への支援や一方的に話す生徒集団への規範意識の指導が必要である。
- ・「認めあい」の場面として設定した授業での相互評価の場において、評価の観点が明確でなかったために若干混乱することがあった。より具体的な観点の設定により、プラスの評価を重視する相互評価にしていきたい。
- ・相手の気持ちを十分に配慮した言動をとることができないなど、さらに気持ちの面で成長させなければならない生徒に対しては引き続き丹念な指導が必要である。
- ・話し合いや教え合いの授業におけるルールを徹底することで、より効果があがるものと考える。
- ・「磨きあい」として生徒がお互いに高めあうためには、各学年の発達段階に応じた課題・題材の設定が必要である。そのための教材研究に力を入れなければならない。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

館山市立第一中学校

学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが、組織的かつ効果的に進められている事例である。

目指す生徒像を「伝えあい、認めあい、磨きあいのできる生徒」とし、この「三つのあい」の実現に迫っているかということが学校経営、授業、その他諸教育活動の評価の中心軸になっている。「社会性チェックリスト」では社会性を構成する9つの要因、45項目の指標が設定されている。第三次とりまとめで示されている知的、価値・態度的、技能的諸要素・項目と関連させることができるものであり、人権意識等の実態及び変容を把握するうえで参考になる。また、「人権ルーム」の設置・活用や、担任だけでなく生徒が希望する職員、スクールカウンセラーとの教育相談、授業の相互参観及び参観シートなどの工夫は、教育環境づくり、人権尊重の雰囲気にも満ちた学校文化づくりにとって効果的である。